



Newsletter No. 24

Maxillofacial Prosthetics

発行人 鰐見進一

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel: 03-5620-1953 Fax: 03-5620-1960

E-mail: max-service@onebridge.co.jp

第34回総会・学術大会案内



大会長 米原 啓之

(日本大学)

会期: 平成29年6月1日(木) ~ 3日(土)

会場: 全電通労働会館 全電通ホール

(東京都千代田区神田駿河台3-6)

事務局: 日本大学歯学部臨床医学講座

一般社団法人日本顎顔面補綴学会 第34回総会・学術大会を日本大学歯学部臨床医学講座が担当させていただくことになりました。

顎顔面補綴学会は、補綴科、口腔外科、再建外科、摂食機能療法科などの各専門医をはじめとして言語聴覚士、歯科技工士、歯科衛生士など各領域の専門家が数多く参加している学際的な学会です。現在求められている医療においては、原疾患

の治療成績のみならず、治療後の生活の質の維持が重要になってきており、顎顔面補綴学会において日常生活において不可欠な咀嚼嚥下、構音機能の改善・回復を担う本学会の重要性は増してきています。

私は再建外科を専門としておりますが、腫瘍などの切除手術と再建外科手術は以前に比べると連携が進んでおります。今後はさらに補綴や摂食嚥下機能の分野とも連携を進めることができれば、患者様のより高い満足が得られるような治療が行えると考えています。そのためには、各専門家がお互いの専門領域を越えて知識や技術を共有して議論することが重要であり、これは学際的な本学会の特徴とも一致するものです。過去33回の大会の長い歴史を持つ本学会がさらに発展できるように、各領域の最新の臨床技術や研究成果を共有できればと考えております。

現在、講座員が鋭意、準備を進めております。数多くの会員の皆様のご参加による活発な発表と討論により、これから顎顔面補綴を推進する機会としていただけることを期待しております。



会場の全電通労働会館と全電通ホール

第33回総会・学術大会報告

平成28年6月2日(木)～4日(土)，新潟大学旭町キャンパス内の新潟医療人育成センターにて，小野高裕大会長(新潟大学大学院)のもと，日本顎顔面補綴学会 第33回総会・学術大会が開催された。

3日には特別講演が，4日には第21回教育研修会が行われ，2日間で一般口演27題，ポスター発表15題，認定医ケースプレゼンテーション1題が発表された。また新企画としてエキスパートによるKeynote Lecture 4題と，ポスター発表としてPoster Shotgunが行われ，大いに盛り上がった。



Poster Shotgun 風景

特別講演

機能と形態からとらえた 摂食嚥下障害の臨床

井上 誠先生

新潟大学大学院

摂食嚥下リハビリテー

ション学分野・教授(写真)



高齢化の加速する日本で，摂食嚥下障害に対する医療・介護ニーズは増加しているという背景のもと，基礎医学から摂食嚥下障害の臨床へと進んだEBPの第一人者である井上誠先生が，満を持して教育講演の演者として登壇された。

温度感受性TRPチャネルにより温度刺激を電気信号に変えるメカニズムの解説と，カプサイシンや温刺激で活性化されるTRPV1，ミントやメントール，冷刺激で活性化されるTRPM8などの研究と嚥下反射，味細胞とターンオーバーを妨げる口腔乾燥，咀嚼と筋活動，そして嚥下との機能の関連など，研究データを示されながら明確に

臨床での効果を研究結果で裏付けられた。

摂食嚥下リハビリテーションにおいて，「嚥下」に特化されたがちな機能訓練だが，井上先生は「咀嚼動作」回復の重要性を示された。間接訓練と義歯による介入が，3か月後に摂食嚥下を回復させた症例などを提示し，われわれ顎顔面補綴医がまず咀嚼機能を回復する意義が示されたようで，うれしい限りである。

英国などでは胃瘻は神経筋疾患などに適応となるが，それに比して日本では高齢者に対する胃瘻造設件数が多いという事実がある。まだまだ問題の多い日本の高齢者医療だが，その中でも口腔ケアや咀嚼動作回復などの歯科的アプローチの可能性が示され，会員一同，活力を得られた。

(広報委員 関谷秀樹)

第21回教育研修会

テーマ：顎顔面補綴を長期経過症例から 考える

1. 長期経過における機能変化への対応を考える
堀 一浩先生(新潟大学大学院)
2. 長期経過における形態変化への対応を考える
隅田 由香先生(東京医科歯科大学(TMDU)大学院)
3. 長期経過症例のメインテナンス方法を考える
大山 哲生先生(日本大学)

今回の教育研修会は「顎顔面補綴を長期経過症例から考える」をテーマに，上記3名の講師から機能変化や形態変化への対応，メインテナンス方法についてご教授いただいた。詳細は本誌に教育講演抄録として掲載されているので，ご参照ください。



左から講師の大山先生，隅田先生，堀先生

Keynote Lecture

テーマ：Maxillofacial Update



★ “Epithesis Update”

エピテーゼの臨床と製作方法

山口 能正先生（佐賀大学）（写真左上）

★ “Speech Appliance Update”

夢の会話プロジェクト 一人工舌から普遍的な構音補助形態の確立へ—

皆木 省吾先生（岡山大学大学院）（写真右上）

★ “Reconstruction Update”

口腔再建における手術と顎補綴

去川 俊二先生（自治医科大学）（写真左下）

★ “Statistical Prognosis Update”

顎補綴の支台装置の選択と術後経過について

尾澤 昌悟先生（愛知学院大学）（写真右下）

新企画 Keynote Lecture は上記テーマで、4名の講師からご教授いただいた。詳細は本誌に総説として掲載されているので、ご参照ください。

社員総会報告

第33回総会・学術大会初日の6月2日に社員総会が行われ、鱣見進一理事長の再任が満場一致で可決された。おもな役員は以下の通りである。

理事長：鱣見進一

副理事長：高橋 哲

会計担当理事：秀島雅之

理事：井原功一郎、大山哲生、尾澤昌悟、小野高裕、古賀千尋、小山重人、佐々木啓一、佐渡忠司、隅田由香、関谷秀樹、高橋哲、館村 卓、中島純子、秀島雅之、鱣見進一、松山美和、皆木省吾、山森徹雄、吉岡 文、米原啓之

第34回大会長：米原啓之

第35回大会長：松山美和

関連学会報告

11th Biennial Meeting of the International Society for Maxillofacial Prosthetics (ISMR)

On 04/05/2016 an 11th Biennial Meeting of the International Society for Maxillofacial Rehabilitation (ISMR) was held in the capital city of Belgrade, Serbia. During the four days of the meeting, topics like Management of Head & Neck Cancer, Diagnosis, TX Planning, Curative Care Surgery, and Head & Neck Rehabilitation were covered by invited international experts in maxillofacial prosthetic rehabilitation. Hands on workshops such as Facial prosthetics & color, Implant supported craniofacial rehabilitation, and 3D reconstruction were included in this meeting.

For the first time, ISMR has introduced a Graduate Student Presentations Session. The objective is to provide a forum for graduate students and young maxillofacial rehabilitation educators from different countries to interrelate in the form of a seminar session. Five graduate students including myself presented their presentations in this session.

In addition, poster presentation session was held in this meeting with 35 posters. Three poster awards were assigned to the most outstanding posters presented at the meeting. I presented two posters which one of them was awarded with the third place prize that titled “Evaluating the Feasibility and Ac-

curacy of Digitizing Edentulous Maxillectomy Defects". The first and second awards went to Dr. Cristina Nacher-Garcia, UK and Dr. Hsuan Huang, China, respectively.

In this meeting, ISMR presidency was handled to Prof. Dale Howes, South Africa to become the ISMR president instead of Prof. Harry Reintsema, Nederland. The next meeting will be a Joint Meeting of the ISMR & AAMP San Francisco, California USA from October 27-31, 2017.

(Mahmoud Elbashti, Tokyo Medical and Dental University (TMDU))



Dr. Elbashti, the second from the right

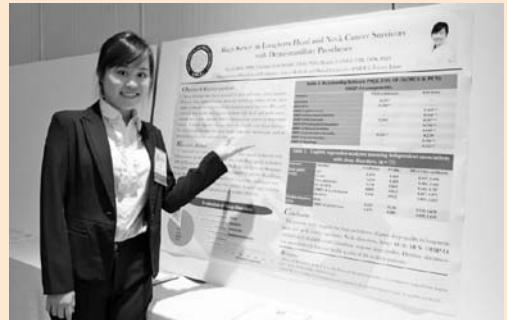
American Academy of Maxillofacial Prosthetics 63rd Annual Meeting



2016年10月1日～4日まで、アメリカ合衆国カリフォルニア州 San Diego にて American Academy of Maxillofacial Prosthetics 63rd Annual Meeting が行われた。本学会では、「Converging Disciplines: Maxillofacial and Art」をテーマに、「Art」と顎顔面補綴治療の関係や口腔癌治療の最前線に関して、顎顔面補綴医や口腔外科、頭頸部外科医、アナプラストロジストなど様々な専門家による講演があった。

初日のポスターセッションでは、日本からも7題の演題発表があり、東京医科歯科大学の Na Li 先生（写真）が Student Award を受賞された。

また、顎骨再建やエピテーゼ材料に関するワークショップも行われた。次年度の大会は International Society for Maxillofacial Rehabilitation (ISMR) との共催で、2017年10月28日～31日、カリフォルニア州サンフランシスコで行われる予定である。（広報委員 吉岡 文）



Student Award 受賞の Na Li 先生

第22回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

2016年9月22～23日、新潟市の朱鷺メッセにて第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会が開催された。第33回日本顎顔面補綴学会学術大会で特別講演をされた井上 誠教授（新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野）が大会長を務められ、6000人を超える様々な職種の先生方が集まった。

メインテーマは「摂食嚥下リハビリテーションの新たな挑戦 ～これからの20年を考える～」とのことで、700題もの多くの演題が集まった。今回は歯科医師である井上先生が大会長ということで、口腔期や咀嚼といった口腔機能に焦点をあてたテーマが多かった。

また、前日は国際化の一環として Japan-Korea Joint Symposium が開かれた。この学会は国際的な連携を目指しており、ヨーロッパの ESSD、北米を中心とする DRS と3学会が協議を重ねて World Dysphagia Summit という国際嚥下学会を設立し、来年にバルセロナにて第1回大会が、2020年には名古屋で第2回大会が開かれる予定である。

次回第23回学術大会は2017年9月15～16日に幕張メッセ（千葉県）で開催予定である。（広報委員 堀 一浩）



満席の第1会場

第23回日本歯科医学会総会



第23回日本歯科医学会総会が2016年10月21～23日、福岡国際会議場・福岡サンパレス（福岡市）にて、水田祥代先生（学校法人福岡学園・福岡歯科大学理事長）を会頭として、「歯科医療 未来と夢」をテーマに開催された。

4年前の第22回大会で、ノーベル賞受賞決定直後の都合がつかず講演がかなわなかった中山伸弥先生（京都大学iPS細胞研究所 所長・教授）と、初の日本人女性宇宙飛行士の向井千秋先生（東京理科大学 副学長）が開会講演を務められた。平日昼にもかかわらず、メインホールどころかサテライト会場まで立ち見となる大盛況ぶりであった。



中山伸弥先生（左）と向井千秋先生（右）
(プログラム・抄録集より転用)

講演が10題、シンポジウム13題、国際セッション（講演とシンポジウム）、ランチョンセミナー15題、テーブルクリニック29題、ポスターセッション357題、視聴覚セッション14題、公開フォーラムと市民イベント、日本歯科医師会プログラム2題、分科会プログラム9題が行われた。当学会に關係の深いものとして以下の発表があり、いずれもポスター前で熱心に質疑応答が

なされ、「顎顔面補綴」の情報や新知見を十分に広められた。

- ・上顎悪性腫瘍摘出術後に顎補綴装置を装着した1例 槙原絵理（九州歯科大学）
- ・3D モデリング法を用いたエピテーゼ製作法について 吉岡 文（愛知学院大学）
- ・上顎欠損患者の発音時口腔内圧 小飯塚仁美（新潟大学大学院）
- ・口腔腫瘍術後患者のQOLと口腔機能の関連 山本雅章（大阪大学大学院）
- ・当院における口腔腫瘍に対するチームアプローチ 生木俊輔（日本大学）
- ・東京医科歯科大学歯学部附属病院顎義歯外来における、「即時顎補綴装置」への取組み 隅田由香（東京医科歯科大学大学院）
- ・東京医科歯科大学歯学部附属病院顎義歯外来における、「密封小線源治療を行う際の装置」への取組み 隅田由香
- ・下顎欠損症例への対応 山森徹雄（奥羽大学）
- ・咽頭喉頭食道欠損患者におけるエピテーゼ技術を応用した人工器官の製作 古賀千尋（福岡歯科大学）

また逆に、本総会は専門外の情報を得られるよい機会でもあった。（広報委員長 松山美和）

関連学会のご案内

●日本口腔インプラント学会 第34回九州支部学術大会

日 程：2017年1月21日（土）～22日（日）

大会長：伊東隆利（伊東歯科口腔病院）

会 場：熊本市民会館（シアーズホーム夢ホール）・熊本市国際交流会館（熊本市）

問合せ：（株）コンベンションサポート九州

TEL：096-373-9188

E-mail：k-jsoi34@higo.ne.jp

●第35回日本口腔腫瘍学会・学術大会

日 程：2017年1月26日（木）～27日（金）

大会長：中村誠司（九州大学）

会 場：福岡国際会議場（福岡市）

問合せ：（株）コングレ九州支社内

TEL：092-716-7116

E-mail：jsoo35@congre.co.jp



Newsletter No. 24

Maxillofacial Prosthetics

●第27回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会

日 程：2017年2月2日（木）～3日（金）
 会 長：山畠達也（東京大学）
 会 場：京王プラザホテル（東京都新宿区）
 問合せ：東京大学医学部耳鼻咽喉科学教室
 TEL：03-5800-8665
 E-mail：jshns27@gakkai.co.jp

●日本口腔インプラント学会

第36回関東・甲信越支部大会
 日 程：2017年2月11日（土）～12日（日）
 大会長：尾関雅彦（昭和大学）
 会 場：京王プラザホテル（東京都新宿区）
 問合せ：日本コンベンションサービス株
 E-Mail：jsoi36kk@convention.co.jp

●第40回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会

日 程：2017年2月24日（金）～25日（土）
 会 長：塩谷彰浩（防衛医科大学校）
 会 場：学術総合センター（一橋講堂）
 （東京都千代田区）
 問合せ：防衛医科大学校 耳鼻咽喉科学講座
 TEL：04-2995-1686

E-mail：enge40@gakkai.co.jp

●第71回NPO法人日本口腔科学会学術集会

日 程：2017年4月26日（水）～28日（金）
 会 長：浜川裕之（愛媛大学）
 会 場：ひめぎんホール（愛媛市）
 問合せ：愛媛大学大学院医学系研究科 口腔顎
 顔面外科学講座
 TEL：089-960-5393

●第41回日本口蓋裂学会総会・学術集会

日 程：2017年5月18日（木）～19日（金）
 会 場：ホテルオークラ東京
 会 長：槇宏太郎（昭和大学）
 問合せ：昭和大学歯学部 歯科矯正学講座
 TEL：03-3787-1151
 E-mail：jcpa41@mlist.ne.jp

●一般社団法人日本老年歯科医学会第28回学術大会

日 程：2017年6月14日（水）～16日（金）
 大会長：櫻井薰（東京歯科大学）
 会 場：名古屋国際会議場（名古屋市）
 問合せ：日本コンベンションサービス株
 中部支社内
 TEL：052-957-2131
 E-mail：gero28@convention.co.jp

●公益社団法人日本補綴歯科学会第126回学術大会

日 程：2017年6月30日（金）～7月2日（日）
 大会長：大久保力廣（鶴見大学）
 会 場：パシフィコ横浜（横浜市）

コンテンツ

第34回学術大会案内	1
第33回学術大会報告	2
関連学会報告	3
関連学会のご案内	5

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会広報委員会
 委員長 松山美和
 委員 大木明子, 関谷秀樹, 中島純子,
 堀一浩, 宮本哲郎, 吉岡文
 E-mail：max-service@onebridge.co.jp